

那珂川だより

那珂川緊急治水対策プロジェクトに盛り込まれた河川対策の進捗やソフト対策の検討状況をお知らせします

令和3年11月
第17号



編集・発行
国土交通省 常陸河川国道事務所

工事の進捗状況 ～大場遊水地関連の工事に着手しました～



○令和3年10月から大場遊水地関連の工事として、土砂混合工事、囲ぎよう堤工事、進入路設置工事に着手しました。

最初に伐採や除草を行い、作業ヤードを確保したうえで、本格的な工事に入っていきます。工事にあたっては、安全第一で進めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

①土砂混合工事



②囲ぎよう堤工事



③進入路設置・囲ぎよう堤工事

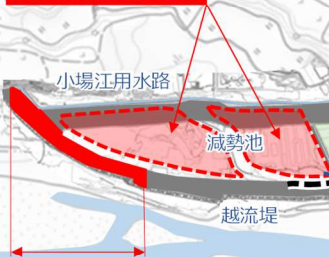


【①土砂混合工事】

河川内の掘削土砂を堤防の盛土材として利用するために砂質土と粘性土を混合して、堤防に適した土砂にします。出来た土砂は囲ぎよう堤に利用します。



①土砂混合工事



②囲ぎよう堤工事

②囲ぎよう堤工事

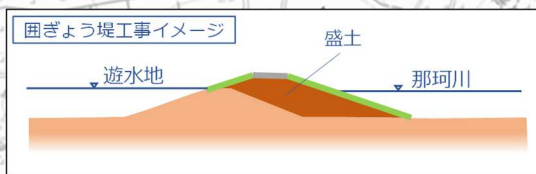
③進入路設置工事

③囲ぎよう堤工事

【②囲ぎよう堤工事】

河川と遊水地との間の囲ぎよう堤を整備します。

※全体の施設配置を概ね示したものであり、細部については変更となる場合があります



【③囲ぎよう堤工事・進入路設置工事】

河川と遊水地との間の囲ぎよう堤の整備や大桂大橋から直接行き来するための工事用の進入路を設置します。

大場遊水地に関する住民説明会を開催しました

○令和3年10月9日に常陸大宮市西部総合公園体育館において、大場遊水地に関する第2回説明会を開催し、遊水地の整備内容や施設の役割、概略スケジュールなどを説明しました。

○説明会は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として3回に分けて行い、延べ約120名の方にお集まりいただきました。

○地域の皆様におかれましては、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



説明会の状況

受付の状況

【番外編】海門橋の歴史を調べてみました！（第2回）



○海門橋の歴史を4編に分けて紹介しています。

今回は2・3代目海門橋についてです。

○明治28年の初代海門橋開通後、約1年で洪水により流失してしまったため、明治31年に再び木橋で架け替え開通しました。開通により、湊町と磯浜町・鉾田方面を往来することが安易になり、湊町から海門橋を使って磯浜経由で水戸市に至る乗合馬車を営む者が現れました。

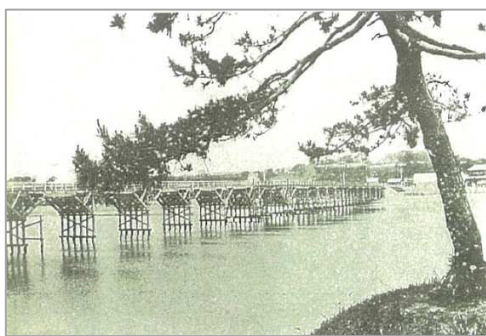
しかし、開通から19年後の大正6年10月洪水で橋は再び大きな被害を受けたため、翌年から建設工事に着手し、大正7年12月に木橋による3代目海門橋が開通しました。

与謝野晶子が水戸や湊を訪れた際、海門橋で詠んだ句

「那珂川の海に入るなるいやはての海門橋の白き夕ぐれ」

「大海の波もとどろ来て鳴らす海門橋の柱ばしらかな」 は今でも有名ですね。（次回へつづく）

寄稿：茨城県土木部河川課



【2代目海門橋（明治31年頃）】

写真：ひたちなか市提供



【3代目海門橋（昭和5年頃）】

（手前が3代目、奥は建設中の4代目）

写真：ひたちなか市提供



与謝野晶子が海門橋で詠んだ句は現在も湊公園の石碑に残されている

境界立会を行いました

○令和3年10月26～27日に、ひたちなか市栄町地区で堤防整備を行う上で必要となる用地境界、令和3年10月12日～11月5日に、常陸大宮市・城里町で大場遊水地の整備を行う上で必要となる用地境界の立会を行い、多くの地権者などの方にご参加・ご協力いただきました。

今後、詳細な用地及び物件調査を進めて参りますので、ご協力をお願いいたします。

ひたちなか市栄町の状況



大場遊水地立会の状況



国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所 調査第一課
TEL:029-240-4069



〒310-0851
茨城県水戸市千波町1962-2

プロジェクトに関するお問い合わせはこちらです

常陸河川国道事務所

検索

